

矢口たすけあいプラットフォーム企画 いずみえん納涼祭での「こども SOS の家」等の周知と住民ニーズの収集活動報告書

1 イベント概要

名称	いずみえん納涼祭での「こども SOS の家」等の周知と住民ニーズの収集活動
日時	2024年8月1日(木) 18時～20時
場所	いずみえん(特別養護老人ホーム・障害者支援施設)
参加者数	
主催	社会福祉法人徳心会 特別養護老人ホーム・障害者支援施設いずみえん
連携	矢口特別出張所・こども SOS の家協力員・大田区社会福祉協議会

2 実施内容

- ①「こども SOS の家」制度の地域住民への周知と子どもたち等との交流
- ・多摩川小学校付近のこども SOS の家所在地地図の掲示
 - ・こども SOS の家協力員 3 名参加により子ども等と交流を図り、協力員の存在を身近に感じてもらい、いざというときに駆け込める体制をつくる
 - ・アンケートの実施
(質問内容)ア 「こども SOS の家を知っていましたか？」
イ ホットできる場所が欲しいですか？(家庭・学校・職場以外)
ウ 話を聞いてくれる人が欲しいですか？(家族・学校・職場以外)

【展示内容】



【当日の様子】



②IZUMIEN CAFÉ、おやこで多言語あそびの会、矢口たすけあいプラットフォームの周知
【配布したチラシ】

右記チラシを配布し、IZUMIEN CAFÉ で行われている、おやこで多言語あそびの会の周知を行った。ブースには多くの親子が訪れており、乳幼児を連れた保護者もいた為、好機であったと考える。アンケートでホッとできる場所が欲しいと答えた大人も多くいた為、居場所の一つとして案内した。

また、この取り組みは矢口たすけあいプラットフォームから生まれた活動であること、「矢口たすけあいプラットフォームとは？」も周知出来るよう、QR コードを掲示し口頭で説明した。



3 イベント実施状況（感想含む）

約 200 名の参加があり、大盛況となった。こども SOS の家のステッカーは、見たことはあっても何を意味するのかまで知らないという方がいた。今回を機に目的を理解してもらうことが出来た。また、こども SOS の家自体は知っていても、全然知らない家に助けを求めることにためらいがあるとの声もあり、協力員の方に参加して頂いたことで、身近に感じて頂けたと考える。ホッとできる場所や話を聞いてくれる人を求めている人は多かった。「欲しくない」と答えた方には現状に満足している方もいたが、ホッとできる場所や話を聞いてくれる人の必要性は感じているようであった。（別紙いずみえん納涼祭での「こども SOS の家」等の周知と住民ニーズの収集結果参照）

4 プロジェクトを通じ、イベントを実施したことの効果

イベントに関わった方や団体	効果
行政(矢口特別出張所等)	<ul style="list-style-type: none"> ○こども SOS の家を周知し、目的や意味を伝えることが出来た。また認知度の向上につながった。 ○定年退職後、自宅にいる時間が増えたので協力員になりたいという方が 2 名いた。外に出て発信することで、支え手側の人材確保につながった。
大田区社会福祉協議会(地域福祉コーディネーター)	<ul style="list-style-type: none"> ○地域福祉コーディネーターとして、新たに社会資源を開発するのみならず、既存の社会資源の有効活用化を図ることが重要と考えており、「こども SOS の家」というすでに存在している社会資源を有効活用できたと考える。 ○地域で子どもたちを見守ってくれている方とつながることが出来た。 ○アンケートにて、ホッとできる居場所や話を聞いてくれる人が必要というニーズ(希望)を再確認することが出来た。今後の居場所づくりを検討していく時に、これらの声を反映していく予定。
矢口たすけあいプラットフォームメンバー	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合いの中からこの取り組みが実現でき、話し合う大切さやアイデアが実現できる楽しさを確認できた。 ○矢口たすけあいプラットフォームについての周知もできた。 ○すでに始まったメンバーの IZUMIEN CAFÉ での多言語あそびの会の周知もできた。

いずみえん	○社会福祉施設の存在を地域の人にも知ってもらう機会となった。とりわけ矢口たすけあいプラットフォームのメンバーである多摩川小学校との連携により小学校5年生によるソーラン節の実演ができ、小学生にも場所を知ってもらうことができた。またIZUMIEN CAFÉの周知もできた。 ○こどもSOSの家にもすでに登録しており、今後より地域に向けて貢献できることを考える契機となった。
こどもSOSの家協力員	○子どもや保護者達と直接交流ができたことで、協力員を身近に感じてもらえることが出来た。実際に知らない人の家に駆けこむのは躊躇うという声や、協力員宅付近で不審者が出たことがあるとの話があり、顔が繋がったことで駆け込みやすいと話があった。協力員としてのやりがいにもつながったのではと考える。
参加した子どもたち	○「こどもSOSの家」の意味を理解することが出来た。自分の家の近くに、協力員の家があるか地図で確認し、今後その道を通った時は探してみるなどの声もあり、意識づけのきっかけとなった。
保護者	○子どもと一緒に協力員の家を確認し、万が一の時は駆け込めるように共通認識を持つことが出来た。実際に協力員の方の顔が分かり、交流が持てたことで保護者としても安心につながるきっかけとなった。

5 今後に向けての課題と考察

(背景)

こどもSOSの家は、地域で子ども達を見守るとともに、安全を確保する目的がある。しかし、認知度がどこまであるかわからなかった。

昨今の社会情勢から、孤独・孤立をいかになくすかが課題となっており、居場所や人とのかかわりをどのくらいの人々が求めているのか把握する必要があった。

(課題と考察)

① こどもSOSの家について

今回の参加者には周知することが出来たが、区内全域に広げ認知度を向上していく必要がある。それにより、この制度本来の目的が果たされ、必要な時に利用してもらうことが出来ると考える。今回の結果を行政の担当者に報告するとともに、多摩川小学校をはじめとした矢口たすけあいプラットフォームメンバーへも共有し、出来ることを検討していく。

② 居場所・人とのかかわりについて

今回のアンケートでは、居場所や人とのかかわりを希望している人が多いということは確認できたので、どのような居場所か、どんな時に人とのかかわりがあると良いか矢口たすけあいプラットフォームメンバーでも検討し、居場所づくり、人づくりを踏まえた地域づくりを行っていく。

③ つながり続けることを目的とした伴走型支援の実施について

矢口たすけあいプラットフォームでは孤独・孤立を防ぐセーフティネットの構築を目指している。今後もSOSを出せない人や生きづらさを抱えた人、孤立している人にあなたはひとりではない、あなたには行ける場所がある、あなたのことを気にしている、悩みがあれば話を聞かせてほしいというメッセージを送ることが重要である。現在深刻化

する社会的孤立に対応するために「つながり続ける」ことを目的とした伴走型支援が生まれている。「生きてつながっていること」に最大の価値を見出し、決してひとりにしないことを支援の根幹に据えるこの伴走型支援を地域住民と専門職等が協働で実施していく。

(振り返りでの確認事項)

令和6年9月2日(月)、こどもSOSの家協力員と矢口特別出張所職員、地域福祉コーディネーターとで振り返りを実施し、次の点が話された。

①こどもSOSの家について

【協力員のモチベーションアップ】

- ・こどもSOSの家のPRの機会がこれまでになかったので、非常に良かった。
- ・SOSの家のマークをどれだけの人知っているか分からなかったが、今回知ることができて改めてやる気が出た。
- ・モチベーションを感じられていない協力員にもフォーカス出来たら良い。

【今後の周知と体験学習・行政内での情報共有等】

- ・後日、地区外の方から「どうやったらSOSの家協力員になれるのか。うちの地区ではやっていない」と連絡あり。その方が居住する地区では、認知度が低いのもかもしれない。
- ・まだ知らない人も多く、子どもに向けた周知を考えていきたい。
- ・子どもの中でも高学年は認知度が高く、低学年にはあまり知られていない印象を受けた。
- ・「マイタイムライン」のように、子どもたちが自分で体験しながら理解を深められると良い。(例：SOSの家が通学路にどのくらいあるか歩いて確認してみるなど。)
- ・地域住民がお互いに顔見知りになって、その人がSOSの家の協力員であったということであれば、SOSの家を身近に感じられるのではないか。
- ・地域力推進課青少年担当及び、出張所長の会議でも報告しようと考えている。

②居場所・人とのかかわりについて

- ・アンケートにあったホッとできる場所や話を聞いてくれる人と知り合うための場が必要。
- ・場所と人は切り離せないアンケートの結果を見て感じた。
- ・上記の点につき、矢口たすけあいプラットフォームのメンバーでも共有していく。
- ・いずみえんの地域交流スペースのIZUMIEN CAFÉの周知が出来た。いずみえんに人が入りやすくなっている。その場を活用し、矢口たすけあいプラットフォームメンバーが実施している「おやこで多言語遊びの会」も参加者が増えてきた。

③今後の取り組みについて

- ・こどもSOSの家協力員2名に「おやこで多言語あそびの会」及び10月10日に予定している矢口たすけあいプラットフォーム第2回企画会を紹介し、参加して頂くこととなった。(9月4日に「おやこで多言語あそびの会」に参加頂き、子ども、保護者等と交流を深めることができた)
- ・保育園児が小学校へ進学する過程での心理的負担が大きいことなどをふまえ、多摩川小学校との連携を深めたいと考えている保育園の園長に矢口たすけあいプラットフォームを紹介し、興味を持ってもらえた。今後、話し合いに参加頂く予定。